

当院での無痛分娩のご案内

出産のときの痛み、不安を感じる方は少なくありません。当院では、その痛みをやわらげる選択肢として、硬膜外麻酔（こうまくがいますい）を用いた無痛分娩を行っています。

「無痛」とはいつても、痛みをまったくなくすわけではありません。ご自身でいきんで赤ちゃんを迎えていただけるよう、必要な感覚は残しながら、つらい痛みを和らげることを目標としています。痛みが軽くなることで、お産による疲労が少なくなり、産後の回復がスムーズになるといった利点があります。

当院では、安全を最優先するため、対象となる方やお産の進め方をあらかじめ決めさせていただいています。下記をお読みいただき、ご不明な点は外来でお気軽にご相談ください。

当院の無痛分娩の特徴

当院の無痛分娩は、安全に配慮し、現時点では次の方針で行っています。

- 対象は、合併症のない経産婦さん（これまでに経膈分娩のご経験がある方）です。
- あらかじめ出産日を決めて入院する「計画無痛分娩」で行います。お産がスムーズに進むよう、陣痛を促す薬や人工破膜などを計画的に用います。
- 麻酔は「硬膜外麻酔」のみを用います。
- 安全のため、平日の日中のみ行います。計画外の陣痛や夜間・休日、緊急の場合は麻酔を行いません。お産が進んでいても、決められた時間になった場合は麻酔を中止します。
- 受け入れ人数には限りがあります（おおよそ月2～4名／週1名まで）。ご希望の方はお早めにご相談ください。

※ 初産婦さん、双子などの多胎、逆子（骨盤位）の方は、現時点では対象としておりません。

対象となる方・受けられない場合

対象となる方

- 妊娠37週0日～41週6日の経産婦さん
- 計画無痛分娩に同意いただいた、無痛分娩をご希望の方

受けられない場合があります

安全のため、妊娠経過や持病の状況によっては無痛分娩を行えないことがあります。たとえば次のような場合です。

- 局所麻酔薬のアレルギーがある方
- 血液をサラサラにするお薬（抗凝固薬）を使用中的方、血が止まりにくい体質の方
- 背骨の病気や手術歴のある方（腰椎椎間板ヘルニア、側弯症など）
- 神経の病気、一部の心臓の病気、コントロールが必要な合併症のある妊娠の方
- 肥満や赤ちゃんの推定体重など、安全に配慮が必要と判断される場合

※ ここに挙げたものはあくまで一例です。実際に受けられるかどうかは、診察と検査の結果をふまえて個別に判断いたします。ご希望に添えない場合もありますので、あらかじめご了承ください。詳しくは外来でご相談ください。

無痛分娩までの流れ

妊娠初期のご案内から、ご出産までのおおまかな流れは次のとおりです。お産の経過により、日程や時間が前後することがあります。

時期	内容
妊娠10週ごろ	外来で無痛分娩についてご案内し、パンフレットをお渡しします。
妊娠32週ごろまで	ご希望の方は「無痛分娩問診票」をご記入いただきます。
妊娠35～36週ごろ	妊婦健診とあわせて「無痛分娩外来」を受診。血液検査と説明（IC）を行い、同意書をお渡しします。
妊娠37～41週	内診の所見をもとに、お一人おひとりの入院日を計画します。
入院1日目（日中）	ご入院後、内診・血液検査などを行い、背中に麻酔用の細い管（硬膜外カテーテル）を留置します。
入院2日目（朝～）	朝から計画的に陣痛を促し（誘発分娩・人工破膜）、陣痛が強まったところで麻酔を開始します。ご出産まで医師・助産師が付き添います。

※ 入院中は安全のため、麻酔開始後はベッドの上でお過ごしいただき、お手洗いは管（くだ）を用いて行います。

費用について

無痛分娩にかかる費用は次のとおりです。通常の出産・入院費用とは別にかかります。

項目	費用（税込）	備考
無痛分娩外来	5,000円	事前の診察・説明・検査にかかる費用です。
無痛分娩費用	150,000円	硬膜外カテーテル留置で2万円、分娩中に麻酔薬の注入を開始した時点で残り13万円が発生します。
通常の出産・入院費用	別途	上記とは別に、通常の出産・入院費用がかかります。

※ 表の金額は、入院2日目にご出産された場合の目安です。お産が3日目以降になった場合は、入院日数に応じた入院費用が加算されます。

※ 出産育児一時金の直接支払制度をご利用いただけます。ご利用の場合、退院時のお支払いは出産費用から一時金（50万円）を差し引いた額となります。

無痛分娩の利点と知っておいていただきたいこと

利点

- お産のつらい痛みが大きくやわらぎます。
- 痛みや疲労が軽くなることで、産後の体の回復が早まることが期待できます。

知っておいていただきたいこと（注意点）

- 陣痛が弱くなることがあり、お産に時間がかかったり、吸引分娩などの処置が必要になることがあります。
- 麻酔の影響で、足の力が入りにくくなる、尿の感覚が分かりにくくなる、かゆみが出る、などが起こることがあります。多くは一時的なものです。
- まれに、頭痛などの合併症が起こることがあります。ごくまれに、より重い合併症が生じる可能性もあります。

当院では、これらに備えて医師・助産師が連携し、麻酔開始後はこまやかに経過を観察する体制を整えています。気になる症状があれば、いつでもお知らせください。

当院の安全管理体制

無痛分娩は痛みをやわらげる一方で、医療的な介入を伴います。当院では安全に行うため、次のような体制を整えています。

- 麻酔は産科麻酔を担当する医師が行い、産婦人科医・助産師と連携してお産を進めます。
- 平日日中の計画分娩に限定し、スタッフが十分に対応できる時間帯に実施します。
- 麻酔開始後は、血圧・脈拍・酸素・麻酔の効き具合などを定期的を確認します。
- 緊急時にすぐ対応できるよう、必要な薬剤・機器を準備し、院内で対応手順を定めています。

ご相談・お問い合わせ：西市民病院産婦人科外来 078-576-5251

無痛分娩をご検討の方は、妊婦健診の際に外来スタッフへお気軽にお声がけください。